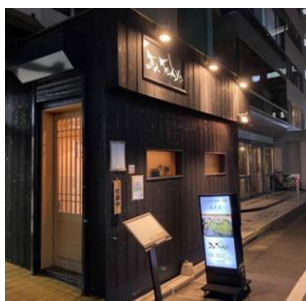




企画記事 座談会

京大技術士会の満足度を上げるには



令和 4 年 10 月 12 日 (水)

19 時～22 時

瓦. Tokyo 茅場町本店

<https://r.gnavi.co.jp/dxy08>

[hrd0000/](https://rd0000/)

座談会参加者の紹介(敬称略)

嶋田 善多 1957 年 大阪府生

【1982 年工学研究科修了(土木工学専攻)、建設部門、電源開発(株)】

坂井 剛太郎 1960 年 大阪府生

【1982 年工学部建築学科卒、総合技術監理部門・建設部門・経営工学部門、(株)竹中工務店】

石原 吉雄 1962 年 東京都生

【1988 年工学研究科修了(衛生工学専攻)、総合技術監理部門・建設部門、(株)安藤・間】

近藤 一寿(記) 1968 年 福岡県生

【1992 年工学部合成化学科卒、総合技術監理部門・建設部門・環境部門、日本国土開発(株)】

ご挨拶

近藤:「京大技術士会に入って良かった」と会員の皆様に思ってもらうにはどうすれば良いかをテーマにして座談会を企画しました。

嶋田: 今日集まった 4 人、偶然にも専門学科が違って、坂井さんが建築、石原さんが衛生、近藤さんが化学、私が土木です。今日は「土木屋の集まり」と思っていたのですが、バラエティに富んでいて良かった。私自身は土木っぽくない電力会社に進んだこともあって(笑)。

石原: 私も嶋田さんと同じく在学中に違和感がありまして、モノづくりの世界に入りたいと思い、嶋田さんとは逆に土木の世界に入りました(笑)。もちろん環境との共生が重要であるとの思いは今も昔も変わりません。

技術士になるきっかけ

嶋田: 私は会社民営化時に何か資格をと思い、建設部門の技術士を取得しました。

近藤: 私は化学・環境の会社から今の会社に転籍入社しました。この世界で重宝されている技術士を取得することが必要だと感じて、建設環境をきっかけにして取りました。

石原: 確かに建設部門以外は少ないですね。

坂井: 私は建築なので、入社してすぐに 1 級建築士を取りました。その後、海外赴任で必要に駆られてマネジメントを勉強したのですが「技術者でありたい」という想いから、技術士を独学で受験しました。建設部門で 3 回不合格になったのちに、ある先生に解答を見てもらったところ「内容は面



嶋田 善多 氏

白いが、用語・領域が違うので土木の先生は採点できないね」と言われました。そこで、経営工学部門に切替て総合技術監理も併願で取得し、その後建設部門も建設環境で取りました。

近藤：現場所長を経験すると、マネジメント力が付くと言われたことがあります。

石原：現場と経営のマネジメントはやや違う面がありますね。

坂井：建設プロジェクトだと、有期限で与えられたミッションを達成するマネジメントになりますね。経営だと長期的な観点と課題認識力、企画能力が必要です。



坂井 剛太郎 氏

京大技術士会入会のきっかけ

石原：専門の建設部門に特化しているだけでは始まらないと思い、社内外の異分野との交流を求めてきました。京大技術士会もそういう想いで入会しました。

嶋田：入会は、確か本会主催の講演会を聞くためでした。講演会後の講師を囲む意見交換も、満足度を上げることにつながるように思います。

石原：コロナ前は講演会後に懇親会を行っていました。

近藤：私は入会して、当時の石原代表幹事から広報担当のお話があり、受けるつもりが六ヶ所村の赴任が決まり、2年越しで帰京して改めて広報担当になりました。コロナ禍で懇親会が開催できない中、なんとか会の趣旨である「会員同士の交流」を広報として実現させたいと思っています。

石原：2年越しでも近藤さんの広報の話は覚えていましたよ（笑）。

発表の場

嶋田：昨年8月、本会で「洋上風力発電事業の動向」と題して講演させてもらいました。再生可能

エネルギー拡大のなかホットな話題だったので、様々な方が聞かれたかと。

石原：講演のお願いに伺いました。

近藤：会員自身、発表する場があるのは良いですね。今回のホームカミングデイでも会員の発表の場を設けたと聞き、広報としても応援しています。

嶋田：今年9月、中北京大防災研究所長のご講演、気象工学から防災として流域の取組みに広がる話で良いと思いました。講演後、農学の方が先生に質疑されていたのは印象的でした。

近藤：先日の台風15号、静岡県内で送電線が倒れることができました。電力の世界でも土木が必要とされているように想像しました。

嶋田：電力も水力、火力、風力、送電と部門として問題を捉えられがちです。そういう意味でも、中北先生の防災という視点で総合的に捉えていくような取り組みが必要だと感じています。

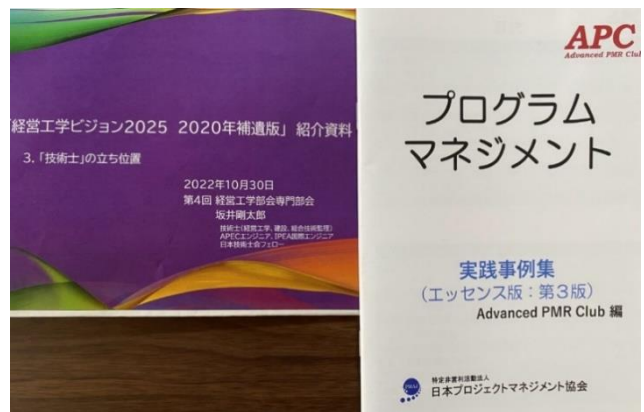
近藤：嶋田さん、坂井さん、石原さん、どなたでも次の後援会の講師をお願いできたらと思います。

嶋田：私が講師というよりも、「コロナ騒動は何だったのか」のテーマでみんなで話し合ってみたいですね。

近藤：昔は「隣にハシカをもらいに行く」風習があったと聞きます。今回のコロナ騒動は、そのような風習を忘れ去った感がありますね。

世代間の交流

坂井：技術士会では主に経営工学部門で活動しています。色々な世代・分野の人たちと成果をまとめるのも楽しいですよ。



坂井様の経営工学・プロジェクトマネジメント資料

近藤：私も sukiyaki 塾東京という技術士受験支援のボランティア組織で下の世代と付き合うことがあります。YouTube や電子書籍を使って、上手く世の中に発信しているのを見て、勉強させられることがあります。

石原：若い世代には「T 型人間になれ」と伝えています。自分の専門を伸ばしていく必要はもちろんあるのですが、同時に横のつながりも模索していかないと、仕事は拡がりません。



石原 吉雄 氏

坂井：私は専門の建築以外の分野も自ら求めて習得してきました。評価軸・判断軸を増やせば、それだけ柔軟かつ大きな視点での最適解にたどり着きやすくなります。

会社や技術士会の中でそれを伝えているのですが、若い世代の方が既成の枠に拘るような面もあり、難しく感じることもあります。「俺もやるから一緒に頑張ろうよ」という風に導いていく必要があるようです。

嶋田：土木だけで仕事ができる場は少なくなりつつあり、若い世代に専門に拘らず視野を広げる場にしていくことが大事だと思います。

近藤：昨年の座談会に参加していただいた竹内さんは若い世代ですが、上の世代や同世代との交流を積極的に取り組んでいるように感じました。

坂井：竹内さんは存じ上げています。青年技術士支援委員会で頑張っておられましたね。

近藤：そうやって京大技術士会も持続可能な会になるといいなと思っています。

石原：持続可能な取組として歴史的建造物の建替えや修復にも取り組んでおりますが、人材や技術を継承していくことは大事だと思います。例えば、所長 1 人に若手 2 人の職員で施工し、継承してい

くなど継続して引継ぎが出来るようにするためです。

異分野に学ぶ

近藤：初めて土木学会に参加したとき、発表テーマが「土」「機械」「鷹」「ICT」とバラバラしていて「何て間口の広い学会なんだ」と驚きました。

坂井：私は建設でも特に建築を専門としていますが、これまで土木の事、経営工学の事など大学の専門に捕らわれずに、幅広く学んで実践しました。現在は大阪万博に取り組んでいるのですが、日本を離れると日本の既成概念は通用しません。言葉や風習も違います。建築は専門に特化しがちなので、私のようなタイプは珍しいかも知れません。

嶋田：電力会社も従前の発電や再生可能エネルギーに加えて、水素やアンモニアを扱い、地中に CO2 を封入するなど、技術分野も急速に拡がりを見せています。様々な技術の接点を求めて色々な事を知らないと、これからの世界では通用しないと思っています。

石原：今日お集りのみなさんはたまたまなのか、専門分野が違ってきます。それでもこれだけお話しできるのは「異分野に学ぶ」気持ちをみなさん持ち合わせているからだと感じます。

【座談会後の感想】

京大技術士会の満足度を上げるには「きっかけを思い出す」「発表の場を持つ」「異分野に学ぶ」があるように思いました。

座談会は瓦蕎麦で締めるまでの 3 時間、尽きることの無い話で盛り上がりました。（了）



山口名物 瓦蕎麦



近藤 一寿

第 15 回講演会開催



オンラインで講演される 春山 純一 氏

第 15 回講演会が 2022 年 7 月 29 日に、コロナの感染拡大状況を勘案し本会初の完全オンラインで開催されました。

今回は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所の春山純一先生（理学部博士課程 1994 年修了）を講師にお招きして、「一緒に月を目指しませんか？」という題目でご講演をいただき、約 100 名の方にご参加いただきました。

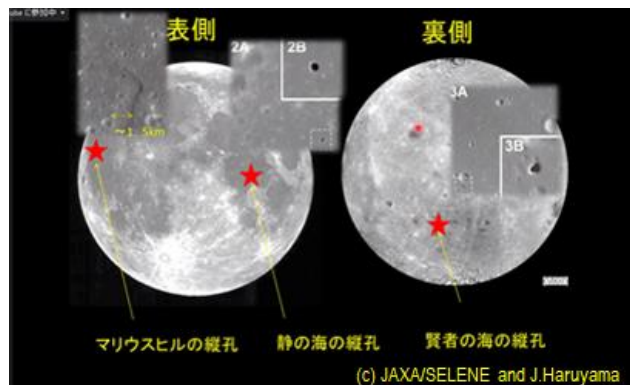
龍原毅幹事（工学研究科 1991 年修了）が司会進行をし、冒頭、樋口義弘副会長兼代表幹事（工学研究科 1984 年修了）の開会挨拶により講演会が始まりました。

講演では、アポロ計画に始まる人類の月面到達の歴史から始まり、月面という極限の環境に人類が適応することは困難であること、そのため人類が月面に居住できる可能性がある場所として溶岩チューブ（火山活動によって形成された地下空洞）に着目し、SELENE（かぐや）プロジェクトで溶岩チューブへの入口となる縦孔を世界に先駆けて春山先生のチームが発見したというご説明がありました。

そして、次なる UZUME プロジェクトでは月面の縦孔内部の調査を目指しているとのご紹介がありました。春山先生には講演後の参加者からのオ

ンラインでの質問にも丁寧にお答えいただきました。

最後に新原雄二副代表幹事（工学研究科・1993 年修了）の閉会挨拶により講演会は閉会いたしました。



春山氏のチームが発見した月の縦孔

【参加者の感想】

月が誕生する過程で火山活動が活発な時期があり、流動性に富む玄武岩質溶岩の流出痕跡が各所にあるということを知った。さらに、地球でもみられる「溶岩チューブ」が存在し、いわゆる天窓と称される縦孔も発見されている。縦孔の側壁には層状構造もみられ、地質屋として月面の地質構造に大いに興味が沸く新鮮な講演でした。

【応用理学部門 武藤 光（正会員）】



京大若手会参加報告



本会の佐竹副代表幹事（1992 年工学研究科修了）が 2022 年 7 月 31 日開催の京都大学同窓会若手会総会に参加しました。若手会はその名の通り 45 歳以下の京大卒の方の同窓会です。本会とは設立が同時期でこれまで友会として広報協力などをしてきました。

2020 年に初代会長の許志国（ジーコ）さんが急逝され、しばらく活動を休止されていましたが、石川智史新会長の元、活動を再開され、今総会開催の運びになりました。

内容は、ゲストの NTT 澤田純会長講演の後、ディスカッションやゲームなどの参加型プログラムが続き、アクティブな若手会の健在ぶりがアピールされました。

今後も同じ京大同窓会一員として交流していければと思います。

（写真は京大若手会ホームページより）



寄稿

京都大学技術士会 10 年



京都大学技術士会
監事
武山 正人

京都大学技術士会が設立されて 10 年になります。会の運営も軌道に乗ってきたようです。私も 10 年前の設立時から関わらせてもらいました。当会の設立経緯は、12~3 年前当会高宮参与、林参与から相談を受けたことから始まったと記憶しています。当時公益社団法人日本技術士会の理事を務めていた京都大学同窓が数名おり理事の任期中に京都大学技術士会の形を作ろうということになりました。公益社団法人日本技術士会の西村元常務理事（同窓）にも相談し、京都大学本部には大西有三先生が副学長、渉外担当ということもあり正式の同窓会活動として認知されスタートを切ることができました。スタート時には運営資金の問題があり、特に第 1 回の総会の時はどうすれば良いか悩みました。そこで知り合いの会社に設立趣意書を持ってお願いしたことが記憶に残っています。検討の俎上に載せていただいた会社もあるし一大学のためには難しいと難色を示されたところもありました。産みの苦しみを乗り越え 10 年の節目を迎え、会員数 1000 名に向かってこれからも進んでいきましょう。

【1969 年工学部土木工学科卒業、1971 年同工学研究科修了、土木工学専攻、建設部門、元四国電力】

第 10 回大会・特別講演会開催

2022 年 9 月 10 日に京都大学技術士会主催の第 10 回大会・特別講演会が、東京丸の内の京都大学東京オフィスで開催されました。また、その様子はオンラインでも配信され、会場参加とオンライン参加合わせて約 120 名の申込みがありました。大会・特別講演会は年に 1 回、京都大学あるいは東京で開催されているもので、東京での開催は 2018 年以来 4 年ぶりとなりました。

大会では、京都大学技術士会の大津宏康会長の開会挨拶の後、樋口義弘代表幹事（工学研究科 1984 年修了）から当技術士会の活動報告が行われました。引き続き、当技術士会の設立に際し、多大なるご支援、ご尽力いただき、今年、日本技術士会常務理事を退任されました西村文夫様への感謝のお言葉を大津会長が述べられ、西村様からもご挨拶をいただきました。そして、来賓としてご参加いただきました日本技術士会専務理事の寺沢計二様と同常務理事の田附武志様からもお言葉をいただき、日本技術士会と京都大学技術士会の今後益々の発展を期し、両会の連携を確認する機会となりました。

講演会では、まず始めに京都大学工学部長で京都大学技術士会副会長でもあられます榎木哲夫先生より、「京都大学工学部の現状と課題」と題してご講演いただき、工学分野においては女性の進出・活躍が大きな課題となっていること、それに対する工学部の取り組みなどについてご紹介いただきました。次に、日本技術士会技術士制度検討委員会委員長の中川裕康様から「新・技術士 CPD 制度の推進」と題して、昨年からはまりました新たな CPD 登録制度や「技術士（CPD 認定）」の認定についてご説明をいただきました。



講演される中川裕康委員長

特別講演会では京都大学防災研究所長の中北英一先生をお招きし、「地球温暖化影響と適応－我が国の風水害を中心に－」と題してご講演いただきました。近年、温暖化の影響で雨の降り方が変化し水害・土砂災害が頻発していますが、我が国のハザード・水資源の気候変動影響予測では今世紀末にかけて極端現象がさらにシリアスになると推測されていることを示され上で、それに適応するための取組みとしての「流域治水」についてご説明いただきました。最後に新原雄二副代表幹事の閉会挨拶により、第 10 回大会・特別講演会は閉会いたしました。



講演される中北英一防災研究所長

第 48 回技術士全国大会（奈良・関西） 開催

第 48 回技術士全国大会（奈良・関西）が、2022 年 10 月 28 日（金）～31 日（月）に、「まほろばの国から未来社会へ～技術の融合と新たなイノベーション」を大会テーマに、奈良市で開催されました。オンライン併用のハイブリッド方式を採用し全国から技術士、技術士補、一般参加者を含め 623 名の参加がありました。

28 日は、「医学+工学でイノベーション創出へ！」をテーマに医工連携 特別講演会と各分会・委員会による専門部会、ウェルカムパーティーが開催されました。

29 日はホテル日航奈良にて、大会テーマをもとに、4 テーマすなわち「イノベーションを生み出す力」、「これからの災害に求められるテクノロジー×専門家の連携」、「イノベーション・ロボット・AI と技術者倫理」、「未来社会への技術監視」を設け、分科会が開催され、発表やパネルディスカッションが行われました。

29 日の午後はなら 100 年会館で大会式典が開催されました。

田岡直規日本技術士会近畿本部本部長（本会副会長兼副代表幹事）が歓迎挨拶を行い、寺井和弘日本技術士会会長が式辞を述べられました。

文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課長からご祝辞、奈良県副知事、奈良市副市長、国土交通省近畿地方整備局局長からご来賓の挨拶がありました。

併せて記念講演は、大阪大学基礎工学研究科教授（荣誉教授）の石黒浩博士（工学）に「ロボットと未来社会」と題しご講演をいただき、これまでに開発されてこられたロボット技術によってどのような未来社会が実現されるか、人間ロボット・アバター共生社会の可能性についても議論いただき、未来社会実現の手ごたえを感じました。

また分科会報告では、全国から集まった 21 部門の技術士による活発な意見交換結果の報告が行われました。

29 日には交流パーティーやパートナーズツアー、さらに 30～31 日にはテクニカルツアーも開催されました。

本大会は、産学官におけるあらゆる技術が集結するプラットフォーム日本技術士会として「技術の融合と新たなイノベーション」をキーワードに、「まほろばの国奈良・関西」から、未来社会日本の実現に向け、産業の壁を越えた有意義な技術交流の場となりました。

次回の全国大会は、2023 年 11 月に名古屋市にて開催予定です。



大会式典全景



田岡直規日本技術士会近畿本部本部長
（本会副会長兼副代表幹事）の歓迎挨拶

第 25 回 技術士を目指そう説明会開催

2022 年 11 月 5 日（第 17 回ホームカミングデー）、会場（京都大学吉田本部総合研究 8 号館講義室 2）とオンラインの併用で第 25 回「技術士を目指そう」説明会が開催され、現役学生と社会人の 2 名の参加がありました。



司会進行の大坪幹事



挨拶する田岡副代表幹事

本会の大坪利行幹事（工学研究科 1978 年修了、経営工学部門）の司会進行の下、冒頭に田岡直規副代表幹事（工学研究科 1983 年修了、機械部門・総合技術監理部門）から挨拶があり、説明会が開始されました。

最初に佐伯賢一幹事（工学研究科 1994 年修了、建設部門）から技術士制度の概要、資格の法的・社会的な位置づけ、求められる資質や能力、試験制度と受験資格についての説明がありました。

続いて「技術士による体験談」として、機械部門・総合技術監理部門の千田琢幹事（工学研究科 2000 年修了）、機械部門の山崎洋右副代表幹事（工学研究科 1983 修了）、森林部門・建設部門の

仲矢順子幹事（農学研究科 1994 年修了）の 3 名の先輩技術士により、それぞれの専門分野での個人的体験に基づいた説明が行われました。企業内技術士の立場での技術士として、技術士資格を取得することで信用度が高まり、社内外での交流・活躍、新たな分野への挑戦の機会が増えることなど、技術士資格取得の意義が紹介されました。



技術士制度の説明を行う佐伯幹事



体験談を説明する千田幹事



体験談を説明する山崎副代表幹事



体験談を説明する仲矢幹事（オンライン）

第 16 回講演会（京都）開催

第 16 回講演会が 2022 年 11 月 5 日（土）、京都大学ホームカミングデイ開催日に合わせて総合研究 8 号館講義室 2 と Zoom 配信で開催されました。今回は会場 25 名、オンライン 54 名の合計 79 名の参加がありました。

講演会に先立ち、大津宏康会長（工学研究科 1981 年修了）の開会挨拶に引き続き、樋口義弘副会長兼代表幹事（工学研究科 1984 年修了）から京都大学技術士会の紹介および 2013 年の設立以来の活動内容の説明がありました。

講演会は、京都大学医生物学研究所宮沢孝幸准教授様（東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程 1993 年修了）から、『ウイルスとは何か、動物とウイルスとの共進化』の題目でご講演頂きました。



講演される宮沢准教授

講演内容はウイルスに関する内容でした。新型コロナウイルスが 2019 年に発生、世界的に流行して、大混乱に陥っています。歴史的にウイルスは病気を引き起こす病原体として研究されてきましたが、最近の研究により、その概念が覆りつつあります。実は動物のゲノムの約 1 割は「内在性レ

トロウイルス」と呼ばれるレトロウイルス由来の配列で占められています。内在性レトロウイルスは、数万年前から数億年前にレトロウイルスが宿主のゲノムに入り込み、綿々と受け継がれているもので、最近の研究により、内在性レトロウイルスが哺乳類の進化や発生に深く関わっていることが分かってきました。新型コロナウイルスの最新情報の他に、非病原性ウイルスの役割、病気や動物の進化とレトロウイルスの関係についての非常に興味深い講演内容でした。

最後に、田岡直規副会長兼副代表幹事（工学研究科 1983 年修了）から閉会挨拶があり、参加者全員で記念撮影し盛会のうちに終了しました。



挨拶する大津会長



会場参加者による記念撮影

第 1 回会員交流サロン開催

京大技術士会は日本の大学技術士会の中で最大の会員人数を誇り、大学技術士会を代表する組織に成長してきました。毎年秋の京都大学ホームカミングデイに合わせて開催してきた講演会に加えて、今年からは双方向のやり取りができ、会員同士の情報交換ができる企画を実施したいということで新たに京大技術士会交流サロン（2022 年 11 月 5 日、於総合研究 8 号館講義室 2）を開催しました。

今回は「技術士としての活動内容」として、8 名の本会会員がそれぞれ 10 分程度の持ち時間で、現在のご自分の仕事や趣味・活動を紹介されました。

（発表内容）

上田泰史氏；最近の仕事と自分の活かし方

南荘淳氏；最近の仕事と活動

大坪利行氏；最近のコンサルとしての活動記録

水田潤一氏；電力会社における最近の仕事

今西秀公氏；建設部門の技術士としての活動

田岡直規氏；日本技術士会での技術者倫理の研究

樋口義弘氏；京大技術士会を中心とした活動報告

武山正人氏；発電事業に関わる話題



南荘会員



水田会員



武山監事

各会員の活動紹介を聴いて、会員にはこんな人もいるのだという、楽しい発見をした人も多かったと思われます。

次回以降は「京大技術士会に要望・提案すること」「京都大学に物申す」等の企画も開催できればと考えており、さらに会員がもっと活発に発表出来るように工夫をしたいと考えております。

寄稿 クロス・オーバー

協本 幹雄



本業は河川・道路の土木技術者だが、もう一つのライフワークとしてミュージシャンをやっている。フォーク、ロック、ソウル、ジャズ、ラテンと色んなジャンルを経験し、今は、ジャンルを超えたクロス・オーバーなギター弾き語りをやっている。

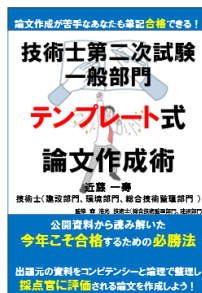
一方、よりよいインフラ整備には、環境や福祉等の専門家との協働が必要である。インフラ整備に必要な財源を獲得するには、政治・経済の専門家との協働も必要であり、インフラを企画・計画する役所（官）、設計・建設する民間（産）、その高度化・効率化に研究者（学）の協力・支援が欠かせない。この産学官連携というクロス・オーバーが必要との思いから、福井県内の意見交換の場、メーリング・リスト「ふくい里川研究会」「ふくいの道研究会」の世話人として、最新の技術の紹介や問題提起・解決のきっかけづくりに努めている。本、京大技術士会も産学官連携のクロス・オーバー集団として活躍してほしい。



ボサノバ・セッション中の筆者（中央）

【1979 年工学部交通土木工学科卒、総合技術監理部門・建設部門、佐幸測量設計（株）】

技術士（一般部門）の電子書籍を出版！



近藤 一寿



コンピテンシーと論理で整理する「[テンプレート式論文作成術](#)」を Amazon で販売中です。皆様のお近くの受験生にご推薦お願いいたします。

【1992 年工学部合成化学科卒、総合技術監理部門・建設部門・環境部門、日本国土開発（株）】

編集後記

今回の広報 12 号、皆様のおかげで大変充実した内容になりました。この会報で会員の交流の輪が広がっていくことを心より願っています。お近くに加入ご希望の同窓技術士の方がいらっしゃれば、[京都大学技術士会ホームページの専用フォーム](#)からお申込みをご案内ください。

この秋、建設フェア近畿の出展で久しぶりに大阪出張しました。心齋橋にある「[遊べるお好み焼き屋 OKO](#)」はおからを使ったお好み焼きで、おいしさ抜群、ボリュームたっぷりでした。



やはり自分の足で現地に行って、実際に見たり、聞いたり、味わったりすることが一番感動できます。今年も会員の皆様と直接会って、お話しできることを楽しみにしています。（了）